
[有りがちな転生モノ] ねぎてん！

metro_polytank

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「有りがちな転生モノ」 ねぎてん！

【Nコード】

N8068Y

【作者名】

metro | polytank

【あらすじ】

チート転生物。ありがちな”他作品キャラの能力ちょうだい”はないものの、莫大な魔力を振るえるオリ主はどこに行き着くのか。ニコポ 撫でポ ハーレムは無し。初めにゼロ魔。メインはネギま！

やっとなぎま編に流れ込める。最強変態シヨタ神カラバが行く！

プロローグ

今はまだ知らない。僕はいずれ幾多の世界をめぐり「最古の聖者」

「止まらない者」と呼ばれることを…

僕は白い空間に立っている…

女神：

「おめでとうございます。貴方には『神の暇つぶしの駒』としてある世界に転生してもらいます。非常に危険な世界であることと、報酬の先払いとして『不老の肉体』を与えます。そもそも転生者機構とは…」

…えっ？

女神：

「…ということですから、貴方に三つの饒別を与えましょう。まずこの本は『術式編纂機』といい、貴方の心臓足りうるものです。次に『無名の杖』：今はまだ只の棒ですがいずれ貴方の宝になるものです。最後に『女神特製ペンダント』を授けましょう。これは個人的なサービスです。『永遠に増え続ける力』を約束します。…ではいつてらっしゃい。」

足元が消え、こうして僕は落とされた。

以下アイテム説明

術式編纂機：立派な本。オリジナルで魔法を作るもの。見た魔法やイメージを記録し最適化・改良し、同時に詠唱も大幅に短縮可能。もし別の世界であれば『ロストギア相当の高性能なデバイス』。魔術的意味をもった陣や文様も作成可能であり、これを用いれば腕輪等に変形可能。

無名の杖：現在は『並みの魔法発動体』。長さは1メートルオーバーの金属製。割と軽い。

ペンダント：ペリドット。布製の紐の長さは調節可能。

主人公説明

名前：カラバ サリーナス

性別：服装次第では判別不能な 一応男。

印象：目立つのは髪。長髪で薄いまだら模様。模様、色合いは時折変わる。

猫のようにいたずらっぽい目。ひよろ長な体型。あと眼鏡。

初めはゼロ魔（1週目）をはさみ、ネギま（大昔）に移る予定！

ゼロ魔編 1 - 1

貴族と平民という構造から…多分ここはゼロ魔の世界かな。幼児の状態で土の上で倒れていた僕はとても上品な女性に拾われました。幸い所持品も回収しておいてくれたようで何よりです。

彼女は貴族の夫婦で、なかなか子供が生まれず神に子宝を願っていたらしい。

名前を頂きました。

「カラバ・セレスタン・ル・サリーナス・ド・シャンリット」
これが僕の名前です。

- - - - -

父 エリック

「カラバよ。少しばかり早い気もするが魔法を教えたいと思う。」

母 クロエ

「早すぎるのではないですか？」

待ちに待ったこの一言。カラバ推定4歳。

「父上。習いたいです。」

「そう言うと思っていたわ。魔法の教師も既に探しておいた。存分に学びなさい。早速明日からだ。」

「はたしてわが子に才能はあるのか。」

「きつとありますわ。血はつながっていなくとも私たちの子供ですもの。」

「その杖は大き過ぎないか？」

「これから鍛えますから、近いうちに使いこなせるようになります。」

」

- - - - -

翌日朝。

「初めましてお坊ちやま。アンサリヴァンとお呼び下され。」

豊かな白髪をもつ老人。彼が僕の先生となる。

「杖との契約はできてますかな？」

「多分。これです。」

金属製の長杖を見せる。毎日のように杖を握っていたので、杖とのリンクは無意識のうちにできていた。

「ふむ。出来てますのう。では、火の適正から見ていきますぞ。

火をイメージして下され。杖に火を灯すのじゃ。」

杖を正面に構え…「火よ。」

杖の先から火焰が迸る！！慌てて杖を落とす。

先生はしばし沈黙し、

「次は水じゃ。なるべく大きな水球をイメージするのじゃ。」

「凝縮せよ！」

杖の先端にサッカーボール並みの水球が生成される。集中が途切れ水球は破裂する。

「今度は風じゃ。風をイメージするんじゃ。」

「吹き飛ばせ！」

突風が吹き荒れ砂が目に入る。痛い。

「荒っぽいのう。最後に土じゃ。足元に『鍊金』と唱えるのじゃ。」

「錬金！」

突如半径5マイルが金色に！先生は判別魔法で調べる…

「初めてにしてはすごい。黄銅じゃわい。」

「そろそろ昼じゃな。続きは明日からじゃ。」

- - - - -

結果。

水は少々見劣りするものの、全体的に高い適正を持っていた。
父と母はとても喜んでくれたのだった。

- - - - -

さらに翌日。

「今日はコモンスペルじゃ。」

ライトは小さな太陽もかくやという超出力。ブレイドは長杖を槍の持ち方で持ち手の先から”当たり判定”で先端から30 سانت程の白刃だった。

疲れたので休憩をはさむ。

出力を練りに練った渾身のマジックアローはこれまた白色で、200マイル先の岩に着弾し、岩は粉々に。

「ふむ。魔力容量がすごい。ブレイドが白いのは全属性に適性があるからか。問題は制御じゃな。」

こうして2日目は終了した。

ゼロ魔編 1 - 2 (前書き)

超！展！開！

ゼロ魔編 1 - 2

魔法を習い始めて先生から多くを学びとった。それからというもの1人で修業に明け暮れた。

この世界のメイジたちの言う魔法とは結果のイメージと自身の”強い感情”から作りだすものらしい。この強い感情を精神力という。魔法を放って疲れるのは集中時に力みすぎただけなのだろう。しまいは気絶するというメカニズム。よく分からないが、使えるのだから良いだろう。とりあえずどうでもいい話。

一方、周囲の精霊を使役するのが先住魔法といわれ、メイジには蛇蝎のごとく嫌われる。主な愛好者がエルフだからか？先住魔法には予め契約する必要があるが、制約も多い。この工程を省略できないか？

双方のいいとこどりで、周囲の精霊を強制的に使役し、人の身でスクエアがはだして逃げ出す（といいね）大火力の術を行使する。これを精霊魔法と呼ぶ。自身の魔法はこれに当たる。

魔法が出回って6千年と聞くが、進歩は無かったのか。

僕の術式編纂機は魔術行使にあたり、詠唱とイメージの大幅な肩代わりをしてくれる。最初はフルで詠唱が必要だけでも、しばらくすると無詠唱なしワンフレーズでOK。新しい術の提案もできる。黒い本の形をしていて開く必要はない。最近触れるごとに皮膚に張り付いてその内とれなくなりそうで怖い。

ペンダントの魔力増加はなかなかうれしい。毎日大幅に増えている。

キンクリー！！

- - - - -

誰もが近寄らない、薄暗い森。

…ところで父母は止めたりしないのだろうか？僕には何にも言わないのだが。僕もう10歳。

努力？友情？勝利？…そんなものは無かったぜ！努力はさておき、お忍びで屋敷を抜け出し街で年下の少女たちに片っ端から声をかけたがことごとく避けられた。その代わり街のおっちゃん達に大人気。まだ戦闘はないので勝ちもくそもないわ。

正面に杖を構える。

「アロー、2048爆発連弾！」

赤く光る矢が着弾点を燃やし焦がす。緑の矢は突風に散逸した。石と氷の矢は棒状のまま刺さり破裂する。比較的太い木が初弾にギリギリ持ちこたえ、次弾で弾け飛ぶ！右手に長杖、左手に本。

「ロッドへの魔力急速充填…」

自前の魔力はまだそれ程多くない。

周囲の魔力…自然の魔力と先ほどばら撒いた自分の魔力をロッドに注ぎ込む。ロッドの先が白く輝く。

「アルテミス1e4」

草木が枯れ、気持ち1万発分溜まったあたりで打ち出した。発生した熱量で局所的に空気が爆発的に膨張し、雷鳴が発生。盛大に土煙りを巻き上げ、青白い光線が樹木の上を掠め、晴れ渡る空に溶けていった。

そろそろ昼。屋敷に戻ろう。

チートだけあって、うん。なかなかの超出力！

- - - - -

今日は曇りで雨が降りそう。自室で作業を行う。

？マジックチャージャー（魔石）作成

庭で適当な石を拾う。直径にして5 سانت程の灰色の石。

魔力を込める。魔術行使で杖に注ぎ込む感じ。少し込めただけで直ぐに砕けた…。窓から捨てる。

材料が悪かった。つぎは錬金で金属や宝石で試す。ん？金の錬金出来たのかって？まあチートですから。

アルミや鉄は使えなかった。金銀銅は意外と良かった…。幻想金属はどこかにないものか。

宝石の種類はよく分からない。とりあえず低温型石英（透明）とダイヤモンド（透明）。どちらも大量に魔力をため込むことが出来た。だが取り出し方が判らない。とりあえず作りやすかった水晶球を「魔石1型」と命名。

？幻想金属への追及

金属と宝石を比較すると蓄積量では格段に宝石の方が上。また金属は瞬間でより多くの魔力を閉じ込められるものの、直ぐに散逸することが分かった。

以前杖に魔力を大量に注ぎ込んだ。これにヒントは無いか？

ディテクトマジックで杖自体を調べる。親指の伸ばした爪の先を臨時の杖と見なし、何とか使えた。1メートルオーバーのシンプルな口ツド。

・「杖先」…表面は未知の白銀色の素材で微量ながら魔力を放出している。内部は銀。

・「持ち手」…内部が銅。表面は銀。いつも握る部分

・「杖の尻」…チタン。一部銅。

恐らく、魔力を通すことで「チタン - - < 銅 - - < 銀 -
- < ? ? ? ? ?」と元素の直接転換が起きたと推測。遠からず杖の大部分は? ? ? ? ?に転換されるだろう。? ? ? ? ?を錬金で生成することはできず、これをミスリルと命名。ならば銀塊に魔力を通し続けることでミスリルを作れるのではないか？

それと杖を改造したい。

- - - - -

そんなある日の事

カラバが森から屋敷に帰る途中、空が赤く燃えていた。

屋敷や街の方角から黒煙が昇っている。

街では異形のゴーレムの群れに襲撃されていた。

ふと、後ろに何かが居る！

『赤豆腐 が あらわれた！』

赤く四角いゴーレムは口から液体をぶちまけ、体にかかる。ネット付く液体は独特な刺激臭を放っている。

ガソリン臭…まさか!!

『赤豆腐 は ナパーム をぶちまけた!』

『カラバ は もえやすくなった!』

広がった液溜の端に火が付いた。液面を伝って自身に燃え移る！

『赤豆腐は ひだね を しゃしゅつした！』

『カラバは ほのおにつつまれた！』

もんどり打ちながら水魔法を紡ぐ。

『カラバは もんどりうっている！』

『赤豆腐は ひだね を しゃしゅつした！ しかし こうかは
なかった！』

『カラバの しょうかまほう しかし こうかはなかった！』

『赤豆腐は なかまを よんでいる！』

ナパームは油性だから水では落とせない。冷やしてもナパームに添付されたガソリンの発火点は - 4 0 。なかなか消えない！。体中が痛い！

『カラバは どしゃ を しょうかんした！』

『カラバの ほのおがきえた！』

『カラバの かいふくまほう』

土砂に隠れ、水魔法で少し回復したあたりで、見失ったのか赤い四角は去って行った。

屋敷に急ぐ。屋敷は既に崩れていた。

屋敷の皆は逃げているだろうか…

すでに日は落ちている。炎の赤が痛々しい。

物陰からぞろぞろと何かが出てくる。白いゴーレムに包囲された。焼け跡から黒くて大きなゴーレムが現れた！一部が返り血で赤く染まっている。

『白豆腐 A が あらわれた!』
『白豆腐 B が あらわれた!』
『白豆腐 C が あらわれた!』
『重装豆腐 が あらわれた!』

「アロー!」

『白豆腐 A は たいはした!』
『白豆腐 D が あらわれた!』
『白豆腐 B の 2 連装 9 ミリサブマシンガン が ひをふいた!』
『白豆腐 C の 2 連装 9 ミリサブマシンガン が ひをふいた!』
『重装豆腐 の だいしゅつりよくプラズマブラスト!』

回復魔法が追いつかない。敵は散開して居るので一体を破壊する間に他のが攻撃してくる!

白ゴーレムの防御は紙なのだが数が多いしその武器はおかしいだろう!

『カラバ の アルテミス!』

『重装豆腐 は 1 の ダメージ!』

『重装豆腐 の だいしゅつりよくプラズマブラスト が はそんした!』

『重装豆腐 は てったいした!』

『白豆腐 E が あらわれた!』

『白豆腐 B の 2 連装 9 ……』

…

…

グチャグチャと挟まれ、プラズマに焼かれる。

もう駄目だ…

『カラバに しんこなエラー が はっせいした』
『カラバ一行 は ぜんめつした!』

…我が生涯一片の悔いなし!!

<女神『コンティニューする?』

Yes! Yes! Yes!...

|||||NOTE1|||||

豆腐の兵隊

振興の武装勢力。シャンリット郊外に彼らは流れてきた。目的は新装備の実験。リーダーは物量系の転生者。兵力の総数はまだ少ないのでゲリラ戦によるヒット&アウェイ戦法と弱者への蹂躪が特徴。白豆腐の装甲は相変わらずペライ。重装豆腐の装甲は「全面削り出しオリハルコン」に「抗魔スペル」「固定化」の重ねがけ。間違っても序盤に出現する敵ではない(笑)

近隣のガリア騎士がやって来た頃には既に撤退した後だった。

|||||NOTE2|||||

「汎用」マジックアロー/マジックミサイルの改造

編纂機を用いて詠唱を極力短縮したい。

魔力や精霊を掻き集め、矢に成型し、射出する。

- <M | a r r o w : 「魔法属性」 , 「アロー」 消費する魔力 / 追加属性1 , 追加属性2 , . . . ;

魔法属性 : 「火 / 風 / 水 / 氷 / 土」追加「無 / 光 / 闇 / 雷」

消費する魔力 : 「i n t」

追加属性 : 「追尾 / 連弾 / 集束」追加「爆発 / 麻痺 / 浸食 / ガード無視 / 石化 / 貫通 / 非殺傷 , e t c」

魔法属性はこの世界では4属性のみとされる。世界の制約上追加

の属性は習得不可。また水と氷は同一視されている。光はライトがあるものの、光属性も存在しない。指定なしの場合、基本として自動的に行使用者が得意とされる単一属性が指定される。多属性が混合する場合もあり、この場合相殺する属性をしつかり分離する必要がある。

消費する精神力（魔力）は未指定ならば1発分。

追加属性は複数指定可能。未指定で消費魔力分の同時攻撃。

超集束型マジックアロー/ミサイル 「アルテミス」

- <Artemis」"アルテミス" 消費する魔力」；

規格外な出力の魔法矢。追尾性は弱いものの、巨大な停止・低速目標への使い勝手は非常によろしい。

魔力消費のオーダーは最低4。ちなみに「1e4」とは 1×10^4 のこと。

ゼロ魔編 1 - 2 (後書き)

敵さんはもう片方のオリキャラ。向こうの続きはどうするか…

次回は敵サイドとインターバル！女神様に迫ります（笑）

インターバル（前書き）

件の「彼」の話は無かったことに。実は二人とも彼女の管轄だった。他の神は未定。以降、時々R - 15。

インターバル

僕は最初の場所に戻っていた。正面に女神。

- - - - -

女神：

「残念でしたね。スペル回収率1割未満！。直前の相手が相手ですからしょうがないですが。ぷぷ。」

僕：「あの世界はその後どうなったのですか？」

女神：

「はい。”彼”の独壇場で歴史を積み上げ、ある時点で何事もなかったかのように世界は最初に戻ります。元々数十～数百年周期で作り直される”複製世界”ですから。修業用に転生者をこつ言った場所に送るわけですが、運が悪いと今回のようになります。一周回るときると全転生者は排除され、また初めに戻ります。あ、排除された方々はちゃんと回収されますから。基本的には。」

僕：「世界を作り直すとか意味が分からないのですが。」

女神：「心では理解できているでしょうに。深く考える必要はありませんよ。それより…」

|||||一瞬、自分の意識に空白が発生した|||||

SIDE：煩惱少年カラバ

女神 以下彼女と呼ぶ 今まで意識していなかった。

彼女の軽やかな鈴の転がるような声…鳴かせたい。

彼女のくりつとした碧眼…見足りない。

彼女の白磁の絹肌…触りたくてたまらない。

彼女の緩やかにウエーブした栗毛…舐めたい。

彼女のゆったりとした服から零れる彼女の丸みを帯びたライン…組み敷きたい！

彼女から漂う熟れた果物のような匂いが深いところを刺激する…もう我慢できない！

…彼女が膝立ちで抱きしめ、たわわな胸が頭に乗る

「フッフー、フツ…フンハッ！フンハッ！フンハッ！」

心臓がバクバクと痛い。

…彼女はズボンの中にひんやりとした手を滑り込ませて急所を握りしめる

「ゼヒユーゼヒユー…」

「め！ まゝだ、だゝめゝよっ！」

「私の言うこと聞いてくれる？」

Yes！Yes！Yes！…

「じゃあ…また出直しておいでね？そうしたらシテあげる」

Yes！Ye……………あれ？

彼女はもう数歩離れているのに僕は気づかなかった。

当然、足元が黒い穴に埋もれていたことにも僕は気づかなかった。

「行先は”停滞世界”よ。今度こそ殺されはしないから…もっと強くなつてね」

これまた当然、その後になんにやることは無かった。

「何を」とは言っていなかったし…。

…オウフ！

「……………一瞬、自分の意識に空白が発生した……………」

S I D E：少年カラバ

…なぜ勃起しているのか分からない。なぜズボンの中が濡れて匂っているのか分からない。

ゼロ魔世界からここに戻って…あれ？（体感）時間はたっていないのに物凄く精神を摩耗したような？

それに自分の根本が一瞬で書き変わった…？うーむ…。

女神：

「では、これからネギま世界に行ってらっしゃい！」

「…………少年のあずかり知らぬこと…………」

S I D E：女神

彼が豆腐の角に潰されて戻ってきた（笑）。

面白い事を思いついた。坊やに「アレ」を埋めることにしたわ。

『知性の芽』『痴性の芽』…これは2つで対になるアイテム。前者は「ぬこ」等の人間に思考が追いつかない、または人間とコンタクトするのが困難な転生者に与えるもの。埋め込む転生するのが人間だけだと誰が決めたの？ 後者は一時的に煩惱塗れにしたりと、ちよ…つとばかり精神をいじるの。暫らくたったら沈静化するけどあくまでも待機状態なだけね。前者は品薄で困ってるんだけど後者は腐るほど余ってるのよね（笑）。

ついでに停滞世界に坊やの精神だけ叩き込んだ。（転生者基準で）強くなつて帰ってくるはず。

ポケットに入れた「アカシックシード」に気づいてくれるかしら？

- - - - - New Words！

複製世界：基本世界から派生した無数の複製品。転生者達の主戦場。

基本世界（オリジナルの作品）への干渉は慣習上禁止されている。

停滞世界：泡沫^{うたかた}の世界。数の上では「世界」の大多数を占める。

時間の概念に欠陥があり、空間の”欠け”もひどい。例えるならば、一枚の写真。それだけの世界。時間の概念の欠陥が解消されると時間が動き始め、空間の不整合により消滅する。

アカシックシード：一見只の「豆」。「アカシックレコード」へのリンクを確立させるもの。人の身では莫大な情報に脳と魂が耐えきれず、最悪肉体が破裂する。精々が限定的なリンクを行い、魔道具（宝具級）のレシピ^{レシピー}。設計書を入手したり、ちよつとした未来予測に役立てる程度。それでも精神汚染対策の特製を防壁を展開する必要がある。くれぐれも迂闊に扱わないこと！

インターバル（後書き）

連投。

インターバル 2 　　く停滞少年く（前書き）

くそこは停滞した箱庭の世界だったく

インターバル 2 ー 停滞少年 ー

「固有結界」とか、「型月」臭が香ばしい。
ついでに5億年ボタンとか。

- - - - -

ふんは！ふんはっ！…おや？

ふと、我に返る。この間100年。
ゆつくりと砂上に胡坐をかき、夕日を漠然と眺める。

カキワリの空。注視すれば雲はそこに張り付いたまま形を変えることは無い。夕日も沈まず。

ただ風景が在るだけの孤独な世界。体感時間は刻一刻と過ぎているものの、世界の時間は存在しない。

正面は紅い海原。横は海岸線のカキワリ。後ろは森のカキワリ。これは背景であり実体としてそこには「何もない」！本能的な恐怖で触れる気さえ起きない。

所持品の確認！

本（術式編纂機）、杖、魔石（粉々に割れている）、アカシックシート豆。ペンダント。それと今着ているのは簡素な服。

女神：

「やっと正気に戻りましたか。貴方にはここで固有結界・必殺技の習得、スキルの向上を行ってもらいますね。その暁には自力で戻ってこれるようになります。それにはアカシックレコードとのリンクを渡すことが前提ですから、カギとなる豆を有効に使ってください。」

では。」

――――

まだ豆を使う気にはなれない。

術式の引き出しを増やすべく、新しい技を探す。

――普通の技――

「ブリット」

超高温セラミック片を生成し派手に飛ばしまくる。ショットガンでマシンガン（笑）

「ソフト・ブリット」

いわゆる非殺傷。特に安全な無力化術。

「転べ」

只転ばすのではなく、相手の足を掴んで逆さ吊に引きずりまわす。出力を上げると魔力が切れるまで空高く引きずり上げられる鬼畜重力魔法。

――強力な技――

「マンダラシールド」

強固な多層防壁。対物対魔、精神汚染：あらゆる攻撃をシャットアウト。無数の多種多様な防壁がそれぞれ独立して動く。”星割りの一撃”には負けるが、そこらの転生者の一群には負けるはずがない。

「投影モドキ」

錬金で金属塊を生成。念力で浮かべつつ加熱し別の金属塊で叩き成型をくり返す。剣型の金属塊で水面を叩く。みなも何度も繰り返すうちに宝具無しの「無限の剣製」モドキになった：なんか空しい。

宝具無しなら汎用性で地味にこっちの方が優れている件。

「オリゴ・バインド」

拘束術式の考案。エーテルで生成した鎖と完全に物質化した粘着物を併用する。自身にはそのつもりはないが莫大な魔力で編んだ鎖であるから打破することは困難。

「魔力消去」対策に完全物質化したバネ状の粘着樹脂を生成する。太いバネを擦じって細くするように対象を締め上げる。かなり堅牢だが、ネバネバが対象の動きを止める。

更に「魔力強制吸い上げ術式」「衰弱」、場合によっては「強酸」なども併用可能。

威力から殺傷用。

鎖と粘着物は地面にしっかりと固定されているか、無限延の距離、空中から無数に纏わりつく感じ。

「ソフト・バインド」

肉体への安全性最優先な拘束術式。女性には優しく（笑）。むっちやエロっちい技。

「ゴーレム」

ゴーレムの一斉生成。グニャグニャウネウネと蠢くゴーレムの群れ。キモイの一言。+ で騎士人形等を生成可能。

…以上一例でした。

此処までで5千年

精神が狂いかけることに「初期化」される。腹もすかず眠くもならぬ生活を続ける…

- - - - -

豆を暫らく口に含む。環境的に育てようがない以上食べるしかない

のでは。

…むむ。香ばしい風味が病みつきになりそう。チャンネルが開かれた。アカシックなんちゃらに近づく為精神を集中させる。まだまだ道は長い。

その一端にリンクを確立させかける度に頭が割れ中身を撒き散らし、そして戻る。

此処までで2億年

- - - - -

そして術式編纂機と自身が融合する。更には停滞世界その物と融合する感覚に囚われた。

ついに私はアカシクレコードとの限定的なリンクを確立した。

此処までで十億年。彼はもはや下級神の一根に相当する。

ついに世界そのものと融け合った。

データ群をひとしきり堪能した後、リンクを閉じる。

宝具級魔道具の創造が可能になった。

- - - - -

尚、完全な過去未来の観測は完全なリンクが必要であり、完全なリンクは宇宙と一体化すること。いくら何でもそれは無理であらう。

無限に回帰を繰り返す世界「固有結界『原点再帰』」を習得した杖がオーバーEX級宝具化した

いつの間にか正式に自身が「神」の仲間入りを果たした

此処まで少なくとも数十億年。元の軸座標に回帰する。

「んっふ。女神様あくただ今！戻りまつする！」

- - - - -

「ふんはっ！ふんはっ！ふんはっ！……」

「ひっ！こ…来ないで。ただの冗談なのよ！」

自身を搔き抱く女神様。胸が強調される。うほ。

十歳のカラダとは言え、超高レベルの魔力を放つ。女神には人格が消えるレベルの著しい苦痛を強いるだろう。避けらねぬ貞操の危機を覚える女神様。

- 僕は油断した -

パチンツと指を鳴らす女神様

「精神を漂白せよ！」

…場面は戻る！

||||| New word!!

純魔力塊 / エーテル / 完全物質体

純魔力塊は重さを持たないエネルギーの塊。エーテル体は一部が物質で重さを持つ。核は魔力で構成される。完全物質体は核までが物質化を果たしており、魔力消去でも破壊不可。

さり気にゼロ魔法の錬金は完全物質体。

インターバル 2 〽 停滞少年 〽 (後書き)

連投。 次回は設定。

オリ主設定（ネギま直前）（前書き）

こんな感じ。

オリ主設定（ネギま直前）

オリキャラの各種設定。

注！型月以外の世界では、魔法と魔術は同様のもので区別は無し。

僕：カラバ・セレスタン・ル・サリーナス・ド・シャンリット
外見

年齢：都合10歳

服装：デフォルト：シヨタ貴族然としたマント姿

ネギま世界：基本は旅装。緑。

印象：髪：今は薄い黄緑／抹茶色までのまだら模様。

エヴァと居る間は金／灰のまだら

特に意味は無い。

他：好奇心旺盛でいたずらっぽい目と口元

肉体：「神」

魔力：取りあえず「チート級」とでも

他：キラキラ度アップ。時折何かの判定で＋補正がかかる。

内面

原作知識：精々設定ぐらい（勘がいいとも言つ）。

重要な局面では女神様のアナウンス

前世： 普通の人だった筈。

所持スキル

不老不死 ：シヨタ神。

変身能力 ：一応変身できる。竜族風味とか。

肉体”魔”改造 ：> 限定リンクくより可能になったスキル。変

身能力はその一端。

普段は物凄く肉体そのものの装甲が固いとい
う恩恵。

固有結界 ：>原点再帰<相手の精神に著しいダメージを与える。

魔（神）力放出 ：解放時のみ。超EX級
魔道具創造 ：宝具すらも創造可能
神性 ：半神半人どころでは無かったり。

隠れスキル

痴性の芽 ：順調に芽吹いているもよう。現在>待機状態<。
約束された童帝：R-18イベントが超困難。星の一生レベルを
童貞で過ごしたため。

限定リンク ：かつてアカシックレコードと一部繋がったため。
これによって膨大な魔術知識を得た。

宝具：無銘 ：槍というには華奢で杖というにはこつ過ぎる。

<<神秘性に異常あり
<<出力の安定性に問題あり
<<因果性に異常あり

女神：メガミサマ

外見：ウェーブのかかった栗毛に碧眼。年上キャラ的なエロさ。
内面：サド。刺激を求めているが、直接世界に関わることはできない。
時間軸がアレだが、殆ど1人きりで過ごしている。ちなみに処女。

文才のない作者にこれらの設定を生かせることはできるのか!?

強大（笑）敵オリ主参戦フラグがON!

オリ主設定（ネギま直前）（後書き）

設定の穴、ムラがあってもうるさく言わないでほしいんだ。

エヴァに遭遇　く行動を共に。（前書き）

そろそろ忙しい時期。更新したらそれは現実逃避。
ギャグストーリーを目指したい。

エヴァに遭遇　　行動を共に。

カラバの行動は気紛れ。暴走は滅多になし。

教会：あくまでも架空の組織だから牧師、神父、司祭の区別は気にしない。

フード：いかにも魔法使いです。詳細が描写されないのはみんな似たり寄ったりというモブの宿命。

金ロリ「だから貴方は何者なんですか！」

カラバ「だから人間だと言ってるんだよ！この金ロリが！」

金ロリ「あれだけ派手に人ふっ飛ばして！ホントに人間ですか？あと金ロリ言っくな！」

魔法使い達に放った魔法を思い出す。ジワリと空中から銀色の長杖が”滲出し”、杖先を男たちに向けて腰だめに構える。赤熱した石片の嵐が吹き荒れた。杖を砕き腕を抉り、足を穿つ。腰を砕き障壁ごと胴を穿ち肉を焼く。撃ち漏らしは足元から生えた鎖と触手？に絡まれあらゆる攻撃を受けた。

運が良いのか悪いのか、しぶとく逃げるフードは細いビームで斜めに切り落とされる。

元凶の子供に疲れた様子は微塵もなし。「準備体操にすらならんな……」などと嘯く。

-----ブリーフィング-----

女神：「原作開始約600年前の旧世界にセットしたわ。金髪ロリからさほど遠くない場所よ。」

僕：「他に何かないんです？」

女神：「特にないわ。んじゃ元気だね。」

： 大気圏外だけど、着弾地点は平面座標上ではあってるのよね。

僕：「はい。ではそちらこそお元気で。」

かわされた会話はそれだけだったりする。

- - - - -

それはまさに『彗星が落ちた』と言えよう…

現場に居合わせた息の荒い金髪少女と息の荒い土に塗れた男たちの間に流れる空気は白けていた。

土煙りを巻き上げ、土砂と共に張りつめた空気を吹き飛ばした何か（・・・）が立っている。

煙が消えるとそこに子供が立っていた。年は10歳か。金と灰の斑模様な頭髪は背中あたりまで伸び、緑のボンチヨ旅装のボロを纏っている。

ちんちくりんだが、漏れ出す魔力量から明らかに人間ではない。

金ロリ VS 緑シヨタ VS ローブマン ??? 達

見た目、大人たちが子供二人を包囲している感じ。

??? 「そのガキイ！…何者だ！」

カラバ「通りすがりの子供です。あんたらは何？」

??? 「正義の魔法使いだ！ええい！その吸血鬼共々お縄につけい！」

カラバ「子供を襲う変態共めえ！成敗してくれるう！」

…うん。大体こんな感じ。

- - - - - そんなこんなで - - - - -

カラバ：「エヴァンジェリン。これまで通り勝手にでもついてくぞ。」

エヴァ：「あなたとなら しばらくは退屈しないで済みそうです。」

エヴァのパーティに加わりました」（今2名）

エヴァ：

「それにしてもどういう体をしているんです？その斑髪とか舐めてるんですきゃ！」

カラバ：

「髪は体質みたいなもの。正体は元人間で年は推定数十億歳の神モドキとだけ言っておく。」

エヴァ：

「訳が分からん。」

カラバ：

「神云々は聞き流していい。取りあえず不思議な奴とだけ。」

毎日のように魔法使い達は襲撃をかけてくる。最初の頃は教会からの手勢もあつたが：

- - - - -

当時、教会の腐敗はひどくその権威は堕ちていた。

一行はなぜかよく移動中にいゝタイミングで遭遇するのだ。

その都度エセ司祭以下肥え太った連中を蹴り倒しては資産を付近の村々に還元し、建物は丸ごと焼き払った。暴行を受けていた女性には心身を癒して回った。

ごく稀に信心深い老夫婦が運営する教会に立ち寄った際には商売？
繁盛の呪いをかけておく。

彼らの活躍は「双子の聖者」として児童の絵本として語り継がれる
ことになる。

- - - - -

今では歓待を受けるのだ。

この調子で100年後…

エヴァ：「お前は魔法世界に行くのか？」

カラバ：「ああ。変わり映えのしない毎日はずまらない。と、その
前に、世界樹とやらを見てみたいから極東の二ホンに寄っていき
たい。」

エヴァ：「それまで付いて行くぞ。」

ルートはどうするか？…一直線に決まっている。

スタート地点：今で言うバルト。

ゴール地点：今で言うマホラ・ジャパン。

- - - - -

エヴァ：「ギイヤーアアアアア！！！」

今で言うロシア。現代人ならばロケットのスノーモービル版と形容
するはず。

赤い彗星が雪を巻き上げ（今は厳冬）突貫する。

陸路？海路？めんどくさい事は考えなくていいのだ。

エヴァを自分の前に魔力の粘着する縄で縛り付ける。「ひぎい！」
マンダラシールドを念入りに展開。

魔力を重力に転換し運動量を増やす…推定500トン。

沈みこまない様に注意しつつ念力で加速を開始した。

邪魔する獣は撥ね飛ばし「ひいっ！」更に加速する。

途中無名の小さな山脈を横断？する。運悪く山脈の向きと進路が重蹂躞範囲なっていた為に今では丘が続いている。なお、山の深部にあるはずの鉋脈が露出しており、後に地球科学者の間で議論を呼ぶことになる。

更に加速する。障壁に発生する摩擦熱で橙色に輝き始めた。この時点でエヴァは静かになっていた。

この辺りが最高速度。一応のね。

さて、今は即席で作った船の上太平洋上で途方に暮れている。方向がずれていたようだ。エヴァが面白くなっている。顔面唾液塗れで吐瀉物の酸っぱい臭い。下腹部もry)

ぐったり・ピクピク痙攣するエヴァをペシペシと頬を叩いて起こす。

その前に。女神に方向を聞き、正しい方位と距離を聞く。

では。もう一度。

日本に上陸し大きい木を目指す。

…こうして麻帆良に到着した一行だった。

SIDE：エヴァンジェリン

カラバが障壁を張る。色々とおかしいのには慣れた。変な縄に巻きつけられる…べたついて取れないし心なしか服の中を弄ってくる感じ。

障壁の大きさは子供二人が入るギリギリの球体。

加速し始めると正面から猛獣にぶつかる。岩なんて目と鼻の先まで。ぶつかるって！

…ここから先は覚えていない。

- - - - -

初めから転移したり空を飛ぶてもあったことに後で気付くカラバ。面白ければそれでよし！

本気を出せばモブの一群なんぞ指一本で殲滅出来るのだが…

本気は滅多に出しません！！

リミッターの演出が必要だったと後で気づく作者（汗！

エヴァに遭遇　↓行動を共に。　（後書き）

次回くエヴァと別れる。世界樹に細工する。いざ魔法世界へ！

…そんな感じ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8068y/>

[有りがちな転生モノ] ねぎてん！

2011年11月27日13時51分発行